

平成31年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	
1. 1 教育に関する事項				
(1) 入学者の確保				
①-1-1	(1) 入学者の確保 ・昨年度改修したホームページコンテンツの拡充に向け、広報・公開委員会にて、より見やすいホームページ作りを検討する。 また、ホームページの管理体制を見直す。	広報・公開	総務	10月30日開催の広報・公開委員会公開部会にて、現在のホームページについて、12月末までを目途として学内で意見聴取を行った。集められた意見をもとに随時更新を行った。
①-1-2	・本校の入試広報活動に関するアナウンスをよりわかりやすく発信出来るよう、ホームページのレイアウトを改編する。 また、県内の他高専との連携をさらに深め、共催の入試相談会を県内外で実施する。 ・本校同窓会との連携を図り、関西・東海圏の商船学科入学希望者の掘り起こしを行う。	教務	入試・支援	・ホームページは、閲覧者に分かり易いようレイアウトを改編した。 また他高専との合同説明会は延べ9回開催した。今年度の実績に基づき、来年度からの開催場所、時期等の変更を行うこととなった。(具体的な日程等は新年度に協議) ・今年度も本校同窓会会員(本校OB)による中学校訪問を実施し、訪問先は22校に及んだ。来年度以降、関西・東海圏において、新たに訪問先の開拓を進める予定である。
①-2	県内で実施する各種説明会の他、2年連続で参加予定の「国公立高専合同説明会」(東京)では、あらたに出展物の持ち込みや、参加学生数を増やす等、より充実を図る。	教務	入試・支援	実験実習公開や練習船体験航海を実施しているオープンキャンパス(8月9日、10日)の参加者数が過去最高となり、多くの中学生やその保護者に本校の特性・魅力をアピールした。参加者へのアンケート結果からも概ね好評であった。 また国公立高専合同説明会(6月30日秋葉原)では、今年から出展コーナーにも参加し、派遣人員も増やすなど、積極的にPR活動を展開した。
②-1	「国公立高専合同説明会」に女子学生を参加させ、女子中学生が興味を持ちやすくする。 また、県内の入試説明会にも女性教員を派遣するなど、女子学生確保に向けた積極的広報活動を実施する。	教務	入試・支援	国公立高専合同説明会(6月30日秋葉原)においては、商船学科女子学生が相談ブースにおいて参加者に直接対応し、女子在学生の立場で、女子中学生やその保護者に説明、PRを行った。 また、高校受験向け進路フェスタ(11月3日松阪市)に参加した際は、女性教員を派遣した結果、女子中学生及びその保護者にも好評で、ブース来訪者数が倍増した。
②-2	ホームページの英語版コンテンツの拡充に向け、広報・公開委員会にて検討を行う。	広報・公開	総務	10月30日開催の広報・公開委員会公開部会において、英語版ホームページについて検討し、現在の英文ページに以下の項目に係るページを作成することとした。 ・学校案内(校長挨拶、ポリシー、沿革等) ・学科紹介(スタッフ、カリキュラム) ・活動状況 ・施設情報(アクセス等)
③	昨年度、入学選抜方法の大幅な改定を行い、一定の成果を挙げた。 現在の選抜方法を評価するために追跡調査を進めるとともに、教務委員会等において、さらなる改革に向けて議論を深めていく。	教務	入試・支援	昨年度の入学者における今年度前期試験の状況について、追跡調査を行った。選抜方法により、入学後の成績に差異が生じるのかを主体に議論を行い、来年度以降の参考とした。
(2) 教育課程の編成等				
①-1	・商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。 ・練習船鳥羽丸の代替新造を目指し、5商船系高専が連携して、基本構想を固め、具体的な提案を行う。 ・商船学科と海事システム学専攻を含めた一体型の具体的改革を検討する。 ・高度連携関係にある鈴鹿高専との教育・研究・学生指導等について、引き続き連携協力する。 ・和歌山高専との包括協定に基づいて、研究を中心とする連携協力を推進する。 ・「地域への貢献」を主として、コンソーシアムみえの事業など引き続き県内高等教育機関と連携をすすめる。 ・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、学生を積極的に参加させる。	校長	企画・地域連携	・1月28日に開催の「次世代の海洋人材育成に関する協議会」にて5商船関係者が集まり、商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を行った。 ・練習船鳥羽丸の代替新造を目指し、練習船新造期成会を立ち上げ、11月、5商船系高専が連携して政府、関係省庁へ説明を行った。 ・商船学科と海事システム学専攻を含めた一体型の具体的改革を目指し、グローバルエンジニア育成事業に応募したが、最終ヒアリングで選に漏れた。現在、自主費用でどこまで出来るか検討した。 ・鈴鹿工業高専との間では第18回連携強化推進委員会を7月10日に開催し、両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間での連携事項について協議し、協力体制の強化を図った。 ・和歌山高専とは、包括連携協定の一環として、6月4日～5日に鳥羽丸が、商船学科航海コース5年生の航海実習にて、和歌山県御坊市日高港に入港し、和歌山高専関係者ほか、地元の幼稚園児、小学生らに乗船体験をしてもらうなど交流を行った。 ・「高等教育コンソーシアムみえ」や「地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+)」の事業に参加し、県内高等教育機関と連携を進めている。11月に三重大学で開催されたCOC+のシンポジウムに学生が参加し、ポスターセッション発表を行った。 ・鳥羽市との連携においては、プロジェクトマッピングイベントの協力(7月、10月)、人口遷移確認ツールの開発、浦村湾の海象状況可視化ツール作成など学生を参加させた取り組みを行っている。さらに、離島地域における上水道の漏水問題に取り組んだ。
①-2	専攻科学生の地域企業へのインターンシップ参加を推奨していく。また、豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについて、引き続き検討していく。		入試・支援	専攻科生産システム工学専攻の学生2名が地域企業へのインターンシップへ参加した。豊橋技術科学大学には、編入学で卒業生の入学を推進できた。
②-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。	教務 グローバル教育推進室	入試・支援	12月19日～22日にタイで開催される日タイサイエンスフェアに、4名の学生が海外へ派遣された。また、シンガポールにおいて、3/23～4/2の期間でMELキャンプの実施計画を立てたが、新型肺炎の流行により中止。2/29～3/17にハワイにて行われるKCC国際インターンシップへは3名の学生が参加する計画を立てたが、新型肺炎の流行により中止。 なお、海外留学等を経験した学生の学内発表は、例年2回行われており、第1回は4月10日、第2回は11月6日に開催した。第2回目の発表では、SMA鳥羽丸トレーニングやニュージーランドでの研修プログラムの報告を行った。

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等
②-2	海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 学外講師を招いて実施するTOEIC特別講義などを通じて、積極的な支援を行う。	グローバル教育推進室	入試・支援	9月11日～18日に開催されたSMA鳥羽丸トレーニングプログラムでは、短期留学生と同数の11名の日本人学生が参加し、シンガポールからの短期留学生たちと交流を行った。 また、7月13日～15日の3日間、学外講師を招いて「TOEIC対策特別講座」を実施し、参加学生は42名であった。3/9～4/17に本校にて、シンガポールからの短期留学生受入プログラムの実施計画を立てたが、新型コロナウイルスの流行により中止。
③-1	「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」等の活動に積極的に参加し、加えて本校学生が優秀な成績を収められるよう支援して学生の意欲向上を図る。	教務学生	学生生活	全国総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場し好成績を挙げた。また、全国高等専門学校体育大会に陸上部及び剣道部が出場した。 第54回全国商船高等専門学校漕艇大会（7月14日、15日）で本校Bチームが優勝、Aチームが準優勝した。 第30回全国高専プログラミングコンテスト（10月13、14日）で優秀賞を受賞した。 全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会（10月20日）において、ベスト4に勝ち進んで、デザイン賞を受賞した。 会津大学で開催されたパソコン甲子園2019（11月9日、10日）において、モバイル部門 ベストデザイン賞を受賞した。
③-2	ボランティアの依頼情報があった場合については、学校内の掲示板等に情報を周知する。更に、近隣地域と連携して学生主体の地域ボランティア活動を促進する。	教務学生寮務	学生生活	6月に本科1～3年生が池の浦駅周辺及び本校周辺のクリーンキャンパスを行い、周辺地域住民と触れ合いながら、清掃活動を行った。 近隣の町内会より依頼があり、粗大ごみ回収のボランティア活動を11月に行った。 11月29日に鳥羽警察署で実施された啓発活動ボランティアに参加、協力を行った。 12月20日に鳥羽警察署で上記のボランティアに参加したことについての感謝状が授与された。
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載して情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、前年度奨学金を受けた学生の体験談を紹介し、学生の申請を促す。	グローバル教育推進室	入試・支援	奨学金制度である「トビタテ！留学ジャパン」プログラムに2名の学生が採択された。また、同プログラムの学内説明会を10/30に行い、高校生コースへ5名の学生が申請中である。また、大学生コースへは2名の学生が申請を行った。
(3) 多様かつ優れた教員の確保				
①	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げること検討する。	教員選考	人事・労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げた。
②	企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事・労務	クロスアポイントメント制度活用のため学内に周知を行ったが、今年度の応募対象者はなかった。但し、校長が鈴鹿高専校長を併任した。
③	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性研究者支援プログラムの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。		人事・労務	柔軟な勤務時間制度については、変形労働時間制で対応している。 同居支援プログラム等の取組を周知した。【再掲】
④	外国人教員の採用について検討する。	教員選考	人事・労務	英語教員の採用では、英語版募集要項を作成して公募した。応募が3人あったが適当な人材がおらず採用に至っていない。 両技科大との人事交流を周知し希望者を募った。
⑤	長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を可能な限り検討する。	教員選考	人事・労務	
⑥-1	・法人本部による研修への参加を推奨し、かつ、国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な研修グループ等の活動を推奨する。 なお、教員の能力向上を目的とした各種研修について、積極的な参加を推奨する。	教務	人事・労務	法人本部による研修へ希望者を参加させた。 本校においては、教務主事室主催のファカルティ・ディベロップメント等を実施した。 教員の能力向上を目的とした各種研修について、積極的な参加を推奨している。
⑥-2	・高専機構主催のファカルティ・ディベロップメント研修会に積極的に参加させ、また学内においても教員ファカルティ・ディベロップメントを実施し、能力向上を図る。	教務	教務	例年と指向を変え、学内企画として課題解決型のFDを実施（全3回：8月28日、9月4日、9月5日）した。その内容は実際に本校の業務改善に役立てる状況となっている。 また、11月15日に皇学館大学 教育学部の教授を招へいし、FDも含めた教職員SDを開催した。 ※学内企画として3月4日に、ICTを活用した授業方法等の教員FDを実施を予定していたが、新型コロナウイルスの流行により延期（日時未定）となった。
⑦	教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰していただくよう推薦し、各教職員のモチベーションの向上のきっかけとなるよう努める。	校長	人事・労務	教員顕彰：教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰していただくよう機構本部へ推薦を行った。
(4) 教育の質の向上及び改善				
①-1	モデルコアカリキュラムに準拠したシラバスを作成するとともに、積極的に学生の自主的勉学を促進するPBLを取り入れていく。	教務	教務	3月中旬にモデルコアキュラムに準拠した来年度シラバスが完成する予定である。 また、情報機械システム工学科1年のPBL1、制御情報工学科、電子機械工学科3年・4年の創造実験においてPBLを取り入れている。 なお、創造実験では、専門技術を用いて地域の抱える課題を解決することに取り組んだ。
①-2	他機関等のファカルティ・ディベロップメント事例を収集・検討し、学内において行った教員ファカルティ・ディベロップメント研修の内容を本校ホームページにおいて公表する。	教務	教務	他機関等のファカルティ・ディベロップメント（FD）事例等から、本校における今年度のFDは例年と手法を変えて行った。また、その内容をホームページに掲載した。

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等
②-1	平成25年度に受審した機関別認証評価結果に基づく改善を継続する。また、2020年度受審にむけて学内体制・整備を行う。	点検評価	企画・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度受審に向け、9月、学内に認証評価担当プロジェクトチームを立ち上げ、担当する教員、職員を任命し、資料の収集、作成を進めた。また、校長から諸会議において全学に向けての認証評価に係る周知、協力依頼を行った。 ・2020年6月末の資料提出期限を前に、大学改革支援・学位授機構担当者との事前相談を3月に行う予定である。
②-2	STCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に基づく資質基準を維持するとともに、同条約に基づいた設備の点検を継続する。	STCW条約対策	教務	STCW条約に基づく資質基準の維持に努め、学内で実施するQSS監査を実施した。
③-1	本年度より開始となる新学科（情報機械システム工学科）の授業において、PBLの導入を積極的に進めていく。	教務	教務	後期から情報機械システム工学科1年生の授業科目としてPBL1が始まり、ロボットの制御演習を通じたグループワーク等を行い、与えられた課題について設定された目標を達成できるよう進めた。新学科は1年目であるため、上級学年との縦割り班によるPBL学習は組めていないが、制御情報工学科、電子機械工学科の4・5年生からレクチャー、アドバイスを受ける機会を設けた。
③-2	IT企業と人工知能に関する集中講座コンテンツを開発し、ネット配信することで遠隔地からの授業実施を可能にする。 地域の産業支援センターの協力を得て、アントレプレナーシップ育成のコンテンツを開発し、全国高専で利用可能な教材を作成する。	研究主事	企画・地域連携	株式会社FIXERの社員を講師として10月から12月の間に15時限（1単位分）の特別講義を実施した。内容は、最新のクラウド・AI関連とした。MicrosoftのTeamsによる授業実戦も積極的に取り入れたため講師は東京から授業を実施した回もあった。また、地元の中小企業診断士とともにアントレプレナーシップ教育のための教育コンテンツを作成した。本件は、本部から指定されている共同教育拠点の事業の一環であり、教材作成後は本部が開発している教材共有システムに搭載し、全国高専で利用できるようにする。
③-3	K-SEC提供のCiscoサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育を推進し、教育内容の高度化をはかる。	総合情報センター	総務	制御情報工学科本科5年生における「ネットワークシステム」講義にて、Ciscoサイバーセキュリティ教材「Cybersecurity Essentials」を主たる教材として実施した。
④	高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、教育課程の改善、国立高等専門学校と技術科学大学との間の教育の接続、人事交流などの分野で有機的な連携等、可能性について検討する。	教員選考	人事・労務	高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、教育課程の改善、国立高等専門学校と技術科学大学との間の教育の接続、人事交流などの分野で有機的な連携等、可能性について引き続き検討した。
(5) 学生支援・生活支援等				
①	精神科医1名（月1日）、カウンセラー2名（月1日、週1日）を配置し、面接及び必要に応じて電話相談を実施する。また、学生相談室を設けて、平日は養護教員経験者を非常勤職員として配置し、学生の相談を受け付けている。 また、今年度も外部専門家を招聘し、本校教職員に対する研修実施を検討する。	学生	学生生活	<p>学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、計3名の専門職で必要に応じて実施している。特に、高学年の発達障害傾向にある学生に対して、月1回の精神科医による面談及び週1回の臨床心理士によるコミュニケーショントレーニングを行い、就職支援をしている。教職員に対するの外部講師によるFD研修を11月15日に実施した。</p> <p>1年生を対象に、臨床心理士による自殺予防に関する講演会を2月5日に実施した。</p> <p>3・4年生を対象に、鳥羽警察署によるSNSに関するトラブルへの注意喚起に関する講演会を2月5日に実施した。</p>
②	機構本部と連携・情報共有し新しい奨学金制度に対応する。 奨学金制度の充実のため、新入生入学時の説明会における案内や学内、ホームページへの情報掲載を行う。	学生	学生生活	授業料免除や奨学金制度については、ホームページに掲載を行うとともに、保護者へ案内状を郵送し、情報提供に努めた。また、該当学年の教室、廊下の掲示板及び学生課前等にポスター掲示を行い、学生への情報提供に努めた。また、新入生においては、3月16日及び23日に行われる新入生入学手続説明会で本人及び保護者に対し、説明を行う計画を立てたが、新型コロナウイルスの流行により中止。
③	低学年時より社会人基礎力養成のためのキャリア教育を行い、高学年時で就職力養成のためのキャリア教育を行う。 また、企業の求人関係資料を学生が集まる図書館で閲覧できるようにして、学生のキャリア教育を総合的に支援する。	キャリア教育推進室	学生生活	<p>社会人基礎力養成のための授業科目（一般基礎教育1・2）、就職力養成のための授業科目（キャリアデザイン1・2）に於いて、外部講師を招き、以下の授業を行った。</p> <p>一般基礎教育1：4月17日に学生生活の心得 & SNSに係る授業を実施した。7月3日にスマホ安全安心講座を実施した。消費者教育講座を10月2日に実施した。10月9日にキャリアの形成及び社会意識（マナー）についての授業を実施した。</p> <p>一般基礎教育2：6月5日にライフプランを考える授業を実施した。7月10日にデートDV防止啓発講座を実施した。7月17日に防災に関する講演を実施した。7月24日に三重県議会による出前授業を実施した。</p> <p>図書館に進路支援システム閲覧用パソコン及び企業紹介パンフレットを配置した。</p> <p>キャリアデザイン1：6月18日にWeb適性試験登録、結果の見方解説（マイナビ講師）を実施した。11月19日にインターンシップの動機づけ、Web適性試験登録（マイナビ講師）を実施した。11月26日に自己分析・適性検査の解説（マイナビ講師）を実施した。</p> <p>キャリアデザイン2：11月19日に就活講座、Web適性試験登録・適性試験登録（マイナビ講師）を実施した。11月26日に模擬グループ面接、適正検査の解説（マイナビ講師）</p> <p>2月7日に専攻科、本科3年生、4年生を対象とした校内就職支援セミナーを実施した。</p>

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等
1. 2 社会連携に関する事項				
①	三重県の特徴である水産業、農業、観光業を支援する技術提供を行い、持続的なサービス提供に寄与する。また、これらの情報はホームページに掲載することはもちろん、SNSを通じて積極的に情報発信する。 シーズ集は毎年更新し、ホームページに掲載するほか、関係各所へ印刷物を送付する。	研究主事	企画・地域連携	三重県や鳥羽市と連携し、水産業、農業、観光業を支援する技術提供を行っている。例えば、三重県の重点政策として「海面養殖業の人工知能給餌」を尾鷲水産研究室と実施、「柑橘類の灌水、収量予想に関する支援」も実施している。また、鳥羽市とは人口分布や人の導線記録に基づく、政策検討ツールを共同開発し、今後の市政や観光対応に役立てる。これらの情報は、ホームページはもちろん、学校のSNSで積極的に配信している。 なお、シーズ集を更新し、ホームページに掲載したほか、関係各所へ印刷物を郵送する。
②	三重地方創生コンソーシアムと連携し、他の研究機関と協働することにより1次産業、3次産業の事業者等、三重県をはじめとする行政との意見交換を行う。 三重県工業研究所とは、包括連携を結んでいるため2次産業の事業者の課題解決にも取り組む。これらの成果は、県内の各種研究会等で紹介し、情報発信、知的資産化に努める。	テクノセンター	企画・地域連携	三重地方創生コンソーシアムに、教員、学生が参加し、1次産業や3次産業の最新動向調査を行っている。9月に実施されたマリンITの勉強会では、本校教員も事例紹介を行なった。本コンソーシアムでつながった、1次産業や3次産業の事業者とは頻りに意見交換を行い、いくつかの事業も進めている。 例えば、海苔や牡蠣養殖の事業者向けに、定点観測ブイを設置し、水温をリアルタイムに閲覧できる仕組みを提供した。これにより、牡蠣の放卵時期の特定が可能になった。 また、海苔養殖の事業者向けに、漁期前講習会でICTブイの設置と効果について、複数回説明を行い、実際に鳥羽市、伊勢市、志摩市で実証実験を開始している。
③-1	(機構本部のみの計画のため、省略)			
③-2-1	学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、マスメディアに通知するとともに、コンテスト等で入賞した場合にも、積極的にマスメディア等へ連絡し広報活動に努める。 またホームページへの掲載もあわせて行う。	広報・公開	総務	学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行うとともに、以下の受賞をHP等で公表している。 ・全国高専プロコンでの優秀賞の受賞 ・少林寺拳法部インターハイ出場、全国大会出場 ・公開講座の実施 ・男子走高跳で東海高校総体出場権獲得 ・東海地区高専大会男子走高跳で2連覇 ・全国高専大会男子走高跳で優勝 ・全日本ソーラー&人力ボートレース大会2019にて学生総合優勝および自己新記録達成 ・全国高専プログラミングコンテストで優秀賞を受賞 ・U18日本陸上競技選手権男子走高跳で7位入賞 ・高専ロボコン2019地区大会ベスト4・デザイン賞受賞 ・パソコン甲子園でベストアイデア賞を受賞 ・第8回高校・高専 気象観測機器コンテストで最優秀賞及び優秀賞を受賞
③-2-2	一般市民の利用促進のため、学校説明会等で中学生と保護者へ本校図書館についての紹介を実施するとともに、地域の広報紙へ図書館の利用案内の掲載を依頼する。	図書紀要	図書	主に中学生対象の公開講座（英語高速学習講座）を8月1日～6日、図書館で実施し、10人の参加があった。また、今年度はオープンキャンパス（8月9日入館者199人、8月10日入館者250人）及び地域住民が多く来校する海学祭（10月27日入館者134人）に図書館開放を実施した。 その他、鳥羽市、志摩市、伊勢市の広報紙へ利用案内が掲載された。
1. 3 国際交流等に関する事項				
①-1	機構本部、関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	従来の交流活動に加え、ベトナムNo. 1 およびNo. 2 商船学校の学生の受け入れに関して、担当校の広島商船高専と連携活動を行った。先方のベトナムにおける日本語教育の遅れから、学生の受け入れは、次々年度以降となった。
②	学生に限らず教職員が国際化の重要性を認識するために、グローバル教育推進室を中心として「KOSEN」の海外展開を促進する活動を実施する。 ・ベトナム海事大学No. 1校との具体的交流を検討し、学生の受け入れを検討する。 ・4月17日来学のタイ高専（KMUTT）関係者に対して高専、学校紹介及び卒業生が勤務する地域企業見学を実施する。	グローバル教育推進室	総務担当補佐 教務	4月17日にタイ高専（KMUTT）関係者10名が来校し、本校の学校紹介を行った。また、本校卒業生が勤務する地域企業見学を実施した。
③-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。 また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】	教務 グローバル教育推進室	教務	12月19日～22日にタイで開催される日タイサイエンスフェアに、4名の学生が海外へ派遣された。また、シンガポールにおいて、3/23～4/2の期間でMELキャンプの実施を予定した。（新型コロナウイルスの流行により中止）2/29～3/17にハワイにて行われるKCC国際インターンシップへは3名の学生が参加する。 なお、海外留学等を経験した学生の学内発表は、例年2回行われており、第1回は4月10日、第2回は11月6日に開催した。第2回目の発表では、SMA鳥羽丸トレーニングやニュージーランドでの研修プログラムの報告を行った。【再掲】
③-2	海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 学外講師を招いて実施するTOEIC特別講義などを通じて、積極的な支援を行う。【再掲】	グローバル教育推進室	教務	9月11日～18日に開催されたSMA鳥羽丸トレーニングプログラムでは、短期留学生と同数の11名の日本人学生が参加し、シンガポールからの短期留学生たちと交流を行った。 また、7月13日～15日の3日間、学外講師を招いて「TOEIC対策特別講座」を実施し、参加学生は42名であった。3/9～4/17に本校にて、シンガポールからの短期留学生受入プログラムの実施を計画した。（新型コロナウイルスの流行により中止）【再掲】
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載して情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、前年度奨学金を受けた学生の体験談を紹介し、学生の申請を促す。【再掲】	グローバル教育推進室	教務	奨学金制度である「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに2名の学生が採択された。また、同プログラムの学内説明会を10/30に行い、高校生コースへ5名の学生が申請中である。また、大学生コースへは2名の学生が申請を行った。【再掲】

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等
④-1	※ホームページ関係については、(1)の①-1、②-2にて記載済み。		総務 総務担当補佐	10月30日開催の広報・公開委員会公開部会にて、現在のホームページについて、12月末までを目途として学内で意見聴取を行った。集められた意見をもとに随時更新を行った。 10月30日開催の広報・公開委員会公開部会において、英語版ホームページについて検討し、現在の英文ページに以下の項目に係るページを作成することとした。 ・学校案内(校長挨拶、ポリシー、沿革等) ・学科紹介(スタッフ、カリキュラム) ・活動状況 ・施設情報(アクセス等) 【再掲】
④-2	日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。		入試・支援	今年開催された「日タイ高校生ICTフェア」への参加を行った等、同イニシアティブに沿ったタイとの学生交流を深めるとともに、留学生に特化した寮の増改築を検討するなど、積極的に留学生受入れ実施に向けた取り組みを検討した。
⑤	本校学生の国際交流に関しては、法人本部の実施基準に加えて、外務省の海外危険情報も考慮した本校独自のガイドラインの作成を検討する。また、外国人留学生に関しては、資格外活動状況のヒアリングを定期的実施する。		入試・支援	グローバル教育推進室会議にて「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」を定めた。また、本校留学生に対して、毎月行う在籍確認等の機会を利用し、資格外活動状況を含む近況に関する情報提供を行った。
2 業務運営の効率化に関する事項				
2. 1 一般管理費等の効率化				
	事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部	総務課 学生課 (総務課財務担当補佐)	・事務部に設置されているプリンタの消耗品費や保守・修繕費等の維持費削減のため、リース契約の導入の準備を進めた。 ・書類を保管しておくパイプ式ファイル等を再利用し、管理経費の削減を行った。
2. 2 一般管理費等の効率化 (機構本部のみの計画のため、省略)				
2. 3 契約の適正化				
	・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底する。 ・鈴鹿高専とのさらなる共同調達を検討する。また、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。		調達	・引き続き真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札等によることを徹底した。 ・ガソリンについて鈴鹿高専と引き続き共同調達を実施している。また、電気契約についても名古屋大学を中心に共同調達を検討した。
3 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画				
3. 1 一般管理費等の効率化 (機構本部のみの計画のため、省略)				
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加				
	科学研究費補助金はもちろん、総務省や農林水産省の募集する事業にも応募し、外部資金獲得を進める。 事業化につながるようなものは、産業支援センターが募集する助成金に事業者と応募を進める。 地元企業に勤めるOB等と連携し、外部資金の獲得にも注力する。	研究主事	企画・地域連携	科研費については教員、技術職員へ申請を促した結果、教員のみ申請率は98.0%(昨年度92.7%)、技術職員を含む申請率は97.0%(昨年度94.2%)であった。三重県産業支援センターが募集するファンドに連携企業経由で応募し、海洋観測ブイの製品化に向けた助成申請が採択された。また、総務省の外部資金を1件、農水省系の外部資金3件を獲得した。
4 短期借入金の限度額 (機構本部のみの計画のため、省略)				
5 不要財産の処分に関する計画 (機構本部のみの計画のため、省略)				
6 重要な財産の譲渡に関する計画 (機構本部のみの計画のため、省略)				
7 剰余金の使途 (機構本部のみの計画のため、省略)				
8 その他主務省令で定める業務運営に関する事項				
8. 1 施設及び設備に関する計画				
①-1-1	教育研究設備の整備について、設備マスタープランの更新を行う。 ・学生寄宿舎内のスペースを有効に活用するための改修を10月までに完了させる。 ・総合情報センター、図書館、関連施設を統合する総合情報センター構想について計画・立案する。	校長 総合情報センター 施設 環境整備	財務担当補佐 総務 施設	・学生寄宿舎の改修を9月末日をもって完了させた。これにより有効活用されていなかったスペースに寮室を14部屋追加及び留学生との交流用スペースを作成した。 ・今年度補正予算で図書館改修の概算要求の内示があったため、図書館の機能改修を含めた改修内容を検討するためのWGを1月に立ち上げ2月末に仕様を策定した。予算示達があり次第、設計の契約を行う。 ・総合情報センター、図書館、関連施設を統合するメディアラボ構想について具体的に計画するため、1/8、1/22、1/29、2/12、2/19の合計5回の図書館改修ワーキングを行った。
①-1-2	学生用図書の実質を推進するなど学生の学習支援施設としての機能を充実させるとともに、学生及び一般市民が利用しやすい図書館となるように施設・環境の改修・整備について検討を進める。	図書紀要	図書	今年度は1月末時点で735冊の増書を行っている。施設・環境整備については、図書館棟改修計画においてより良い改修内容が盛り込むよう対応した。
①-2	昨年度に実施した非構造部材の耐震点検結果を元に、耐震化を検討する。	施設 環境整備	施設	非構造部材の耐震診断結果の内不良があった暁寮食堂の庇改修を9月中に完了させた。また、その他不良がある個所については、改修計画を立て令和2年度以降の概算要求の改修希望として10月に要求をあげ、今年度補正予算で図書館改修が採択された。図書館改修時に非構造部材の耐震対策を行う。

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等
②-1	学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事・労務	教職員を対象に、安全衛生管理のため各種講習会への参加を推奨し、今年度は新任等を対象としたAED講習会へ8名の教職員が参加した。
②-2	「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込む。	安全衛生	教務	「実験実習安全必携」を3月末完成の学生便覧に盛り込む予定である。
③	・女子学生用の更衣室のリニューアルを検討する。 ・練習船鳥羽丸の女子学生居住区の改善を推進する。	施設 環境整備	施設	女性学生の更衣室の改修計画の初回として、扉を引戸に改修する案を5月に学生課と立案し、7月に仕様を決めた上で見積りを取った。鳥羽丸の女子学生用トイレドアを8月のドック時に改修を実施した。
8. 2 人事に関する計画				
(1) 方針				
①	課外活動において、外部指導員の計画的活用を昨年度に引き続き実施するとともに、寮務についてアウトソーシング等の活用を検討する。		人事・労務 学生生活	今年度においては、平成31年4月から令和2年3月にかけて、6部活で外部指導員を活用している。
②	教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分の仕組みを検討する。	教員選考	人事・労務	最善の教育環境を維持するため、戦略的に教員人員枠の再配分の仕組みと実行に向けた取り組みを検討した。
③	若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を検討する。	教員選考	人事・労務	若手教員確保のため、上位職ポストを考慮した公募を行っている。
④-1	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げること検討する。【再掲】	教員選考	人事・労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げた。【再掲】
④-2	企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】	教員選考	人事・労務	クロスアポイントメント制度活用のため学内に周知を行ったが、今年度の応募対象者はなかった。但し、校長が鈴鹿高専校長を併任した。【再掲】
④-3	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性研究者支援プログラムの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】		人事・労務	柔軟な勤務時間制度については、変形労働時間制で対応している。同居支援プログラム等の取組を周知した。
④-4	外国人教員の採用について検討する。【再掲】	教員選考	人事・労務	英語教員の採用では、英語版募集要項を作成して公募した。応募が3人あったが適当な人材がおらず採用に至っていない。【再掲】
④-5	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供し、外部が主催する男女共同参画に関する研修等に教職員を積極的に参加を促す。 また、学生に対しても様々な意識啓発を行う。	校長	総務	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を教職員へ提供した。また、12月21日開催の高専女子フォーラムへ学生4名を派遣し、3件の発表を行った。
⑤	教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修へ計画的に参加させ、資質の向上を推進する。 ・採用された教員の学内新任研修の実施を検討する。		人事・労務 教務	教職員の多様な人材育成を図るとともに、各種研修へ計画的に参加させ、資質の向上を推進した。 採用された教員の学内新任研修を実施した。
(2) 人員に関する指標				
	常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努める。		人事・労務 教務	教職員の出退勤の管理方法について着手した。具体的な手法について引き続き検討した。事務のIT化等については、機構本部と連携を検討した。
8. 3 情報セキュリティについて				
	本校教職員を対象とした情報セキュリティ教育として、Azure Information Protection (AIP) に関する講習会を開催し、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。 「すぐやる3箇条」を周知徹底し、定期的に情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発として事例紹介等を実施する。 MieCS-ISACの参画機関として、近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防や啓発活動に取り組む。	総合情報センター	総務	2月25日にセキュリティ管理委員会を開催し、情報セキュリティに関する情報共有および注意喚起を行った。また、情報セキュリティ教育に関して、Azure Information Protection (AIP) 講習会を2020年3月17日に実施し、主体認証暗号化についての教育を実施する。また、メール、教員会議等を通して「すぐやる3箇条」の周知を継続的に行っている。また、定期的に情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐため、メールによる周知を継続している。さらにMieCS-ISACの参画機関として、三重県警サイバー犯罪対策課と情報共有を行いながら、2020年2月1日のサイバーセキュリティ月間啓発イベント運営に、教員1名、学生ボランティア6名が参加し、フィッシング詐欺体験等の体験講座サポートを行った。
8. 4 内部統制の充実・強化				
①-1 ～ ②-1	(機構本部のみの計画のため、省略)			
②-2	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」を教職員に配布し、「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を行った。(12月)
②-3 ～ ③	(機構本部のみの計画のため、省略)			

年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等
④	公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を複数回実施し、不適正経理の防止についての周知を定期的に行う。また、研究倫理教育を行う（eラーニングにて実施）。	校長	平成27年度に初版を作成した「公的研究費使用マニュアル」について、改訂版を作成し、教職員に配布し周知を行った。コンプライアンス研修については3月に実施、研究倫理教育については今年度新規採用の教員に対し実施した。